

ウズベキスタン共和国におけるユネスコ無形文化遺産・ ナウルズの実践

——国家主催によるナウルズの祭典——

齋藤 完

The Grand Celebration of Navro'z in the Republic of Uzbekistan

SAITO Mitsuru

(Received September 30, 2016)

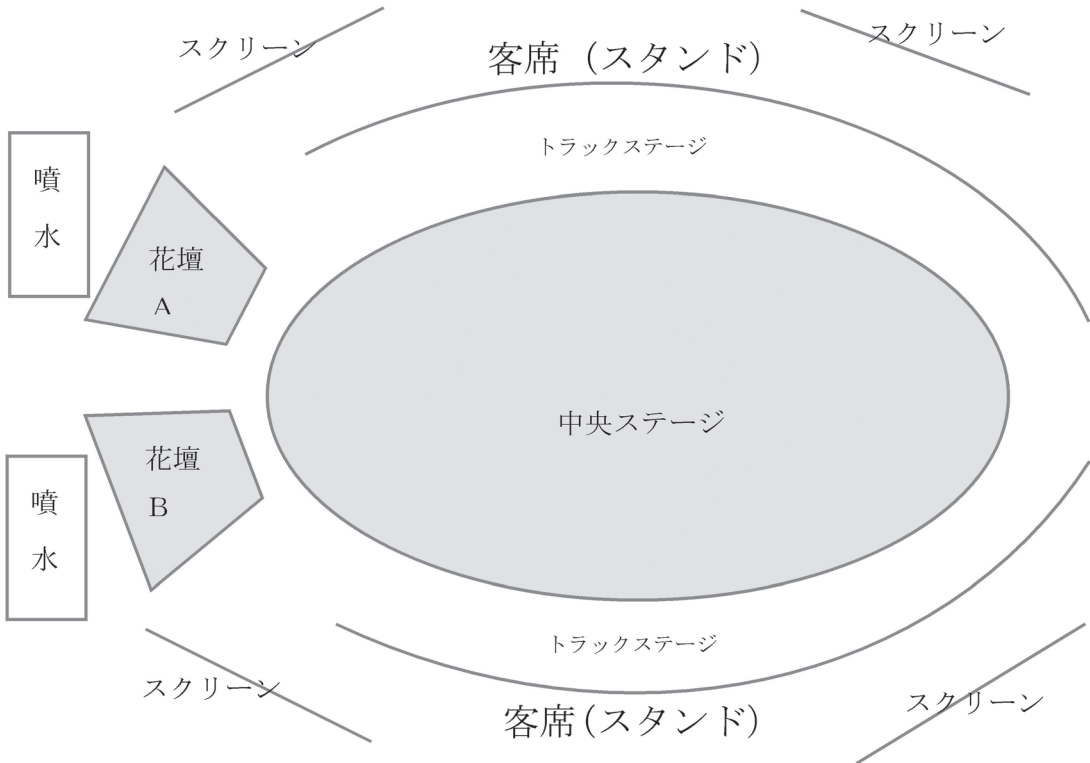
本稿に先行する「ウズベキスタン共和国における伝統文化の保護——ユネスコ無形文化遺産・ナウルズの事例を中心に——（齋藤 2016）」において、ウズベキスタンではナウルズが積極的に保護継承されていることを明らかにした。文献から法律の改正、非政府組織（NGO）や民間団体や共同体による保護、学術的研究、そして教育といった各分野で組織的な保護措置がとられていることを示す一方で、2015年3月に首都タシケントでおこなった現地調査から、保護に貢献すると考えられる実践を報告した。

本稿では、ウズベキスタン国内においてナウルズに関する最大のイベントである、国家主催によるナウルズの祭典を報告したい。対象とするのは2016年3月21日に、タシケント中心部に位置するアリシェル・ナヴァーイー・ウズベキスタン国立公園 Alisher Navoiy nomidagi O'zbekiston Milliy bog'i（以下、ナヴァーイー公園）の野外スタジアムでおこなわれた祭典である¹。

野外スタジアムは図1に示した通り、陸上競技場のような形状をしている。中央ステージは競技場で言うところのフィールド部分に該当し、トラック部分もステージとして使われている（以下、「トラックステージ」とする）。これらステージを客席（スタンド）が囲んでいる。スタジアムの一角には花壇が設置され、春らしさが演出されている。花壇Aには白い生花で作られた四羽の鳥の像が見られるが、これはウズベキスタンの国章にも描かれているフモ khumo という伝説上の鳥で、寛大さと気高さと奉仕の心を象徴している。スタジアムには大型スクリーンディスプレイ（以下、スクリーン）が設置されており、祝典の内容に応じて映し出される映像が変わる。

¹ 祭典は招待客のみが観覧できるが、その模様はナウルズの期間中に何度も国営放送で放映されるので、誰もがこれを目にすることができる。なお、本稿で報告するのはその放送をトルコ共和国のTRT国営放送の関連機関TRT AVAZがインターネットにアップロードした映像に基づいている。TRT AVAZは中央アジアやバルカン半島などに点在するトルコ系住民に向けて「トルコ世界」を喧伝するために2009年に設立された（初放送は3月21日でナウルズが意識されていた）。動画タイトルは「ウズベキスタンにおけるネヴルズの祝典2016 Özbekistan'da Nevruz Kutlamaları 2016」である（ネヴルズ nevrüz はトルコ語でナウルズを意味する）。

祭典は約15分間の大統領の祝辞と約1時間15分の「コンサート」²からなる。以下に、映像に映し出されるものを時間経過とともに報告する。段落冒頭の四桁の数字のうち上二桁が「分」を下二桁が「秒」を表わしている。



【図1】会場配置図

A. 大統領の祝辞

0003：木々に咲く杏子の花を背景に番組タイトル「こんにちはナウルーズ Assalom Navro'z」が映し出される。画面が会場に切り替わり「全民族の祭典ナウルーズ記念行事 Navro'z umumxalq bayramiga bag'ishlangan tantanalari」というテロップがフェイドインする³。鳥のさえずりを背景音にして、スクリーンに花畑の画像が映されているのが見て取れる。

0019：満場の拍手を受けながら会場入りするカリモフ大統領の姿が唐突に映し出される（編集）。30秒以上にわたって、満場の拍手の映像とそれに拍手で応えるカリモフ大統領の映像が交互に現われる。0056にチャング（ツィター属の楽器）の音が流され会場は鎮まる。スクリーンには風にはためくウズベキスタン国旗の映像。「祝辞、ウズベキスタン共和国大統領イスラーム・カリモフ」というアナウンスに総立ちとなり、約30秒のあいだ満場の拍手が鳴り響く。

² 「コンサート」としたが、歌唱を伴ったマスゲームと表したほうが的確かも知れない。なお、歌唱者は全員がリップシンク（音声に合わせて口を動かすこと。いわゆる「口パク」）をしている。

³ なお、テロップはキリル文字。以下も同様だが、本稿ではすべてラテン文字に書き換えている

0220：祝辞開始⁴。

1621：大統領の祝辞終了。会場は総立ちとなり満場の拍手が送られる。1710にカルナイの音が響き渡るまで続く。

B. 「コンサート」の演目

1710：映像は遠くから会場を映す画面に切り替わり、背後にタシケント市内が見渡せる。カルナイの音が響き、画面には会場の外（だが、ナヴァーイー公園の敷地内）で五人の奏者がカルナイを吹いている姿が映し出される。すぐさま、会場内の映像に切り替えられて、カルナイ・スルナイ・ドイラに囃されながら一曲目を歌う歌手がダンサーたちとともに入場する。

「コンサート」での演目は以下のとおりである（時間はテロップが出現時。丸数字は本項「B」に続く「C」に対応している）。

1741：アナウンス「ようこそ愛の祭り Xush kelding oqibat, Mehr ayyomi./ こんにちは新年 Assalom Yangi kun./ こんにちはナウルズ Assalom Navro'z./ / 平和を祝して Tinchlik salomi./ ようこそ新年 Assalom yangi kun./ ようこそナウルズ Assalom Navro'z.」というナウルズの到来を歓迎する言葉。

1807：①ムノージャット・ヨルチエヴァ Munajat Yo'lchiyeva の歌《春がきた Keldi bahor》

2117：②サイーダ・マンスルホジャイエヴァ Saida Mansurxo'jayeva、イローダ・イスマイロヴァ Iroda Ismailova、ディローロム・マルラヒモヴァ Dilorom Malrahimova による舞踊《踊りの花束 Raqslar guldastasi》。

2547：③イリヤス・アラボフ Ilyas Arabov による《どうなるのか Na bo'lgay》。

2828：④「ナウルズ散歩 Navro'z sayli」、ならびにホスイーラ・ラヒモヴァ Hosila Rahimova の歌《スザニ⁵ So'zana》

3200：⑤ミルザグル・サパイエヴァ Mirzagul Sapayeva、ショフサナム・アブドゥジャミロヴァ Shohsanam Abdujamilova、マクセット・ホジャソフ Maxset Xojasov による「カラカルパクの歌 Qoraqalpaq navolari」

3529：⑥ユルドゥズ・トゥルディエヴァ Yulduz Turdieva による歌《ウランに訊いて O'landan sor》

3721：⑦スルホン・グループ Surxon guruhi による歌と踊り「スマラク Sumalak」《ナウルズ祭が来た Keldi Navro'zi olam!》

3902：⑧マシフル・ライムジョノフ Mashhur Raimjonov、ラスルホン・コディルホノフ Rasulxon Qodirxonov、ミリジョッド・ミルコミロフ Mirijod Mirkomilov、シェラリ・バクムロドフ Sherali Bekmurodov による歌《私の農家 Dehqonim》

4012：アナウンス「世界中に与えられる Dunyoga dunyo bergan/ 子供たちの笑顔 Bolalarning kulgusi/ 言葉に価値が与えられる Tillarga navo bergan/ 子供たちの笑顔 Bolalarning kulgusi/ 健康な子供たちとともに Sog'lom farzandlar bilan/ 私たちの国は素晴しくあ

⁴ 祝辞の英語訳（“SPEECH OF PRESIDENT ISLAM KARIMOV AT THE GRAND CELEBRATIONS DEDICATED TO THE NAVRUZ HOLIDAY”）は Press Service of the President of the Republic of Uzbekistan の HP で見ることができる（2016年7月17日21時35分現在）。<http://www.press-service.uz/en/news/5235/>

⁵ ウズベキスタンの伝統的刺繍を施した布

- るのである Yurtimiz go'zaldir/生命に輝く光が与えられる Hayotga ziyo bergan/子供たちの笑顔 Bolalarning kulgusi]
- 4037 : ⑨ズライホ・ボイホノヴァ Zulayho Boyxonova による歌<<私の蜂蜜、私のキャンディ⁶ Farzandim, asal-gandim>>
- 4252 : ⑩ズィヨ Ziyο、セヴィンチ Sevinch、トモシャ Tomosha、マルヴァリド Marvarid、タンタナ Tantana、オーラム Orom、以上の各グループの歌と踊りによる「私たちは幸せな子どもたちです Biz baxtli bolalarmiz」と題された競演
- 4708 : ⑪ウスペンスキー共和国音楽芸術会の生徒たち V. Uspenskiy nomidagi RIMAL (Respublika ixtisoslashtirilgan musiqa akademik litseyining) o'quvchilari による歌<<ウズベキスタン O'zbekiston>>
- 4828 : アナウンス「芸術はヒューマニズムの証 San'at ezgulik elchisi/真の光を与える Azal qalblarga nur berar/音の力を Ohang qudrati/ウズベキスタンの舞台に O'zbek sahnasida/世界の芸術を Jahon san'ati]
- 4845 : ⑫ウズベキスタン青年交響楽団 O'zbekiston yoshlar simfonik orkestri、ならびにナヴァーイー国立アカデミー劇場のアーティスト A. Navoiy nomidagi DAK (davlat akademik katta) teatri artistlariによるバレエ<<ワルツ Vals>>⁷
- 5133 : ⑬ムヤッサル・ラッツコヴァ Muyassar Razzoqova による歌<<エルヴィーラのアリア Elvira ariyasi>>⁸
- 5452 : ⑭ラミル・ウスモノフ Ramil Usmonov とシリン・ママトヴァ Shirin Mamatova による歌<<あなたを愛しています Sizni sevaman>>⁹
- 5812 : ⑮ジェニスベク・ピヤゾフ Jenisbek Piyazov による歌<<音楽を返して Verni mne muziku>>
- 6132 : ⑯ノルムミン・スルトノフ Normo'min Sultonov、サマンダル・アリモフ Samandar Alimov、マースマ・ボルタボイエヴァ Ma'suma Boltaboyeva、ザルニゴル・ウマロヴァ Zarnigor Umarova による歌<<宴の歌 Davra qo'shig'i>>¹⁰
- 6412 : ⑰ゴザル・ジュマニヨフゾヴァ Gozal Jumaniyozova、ファッルフ・コミロフ Farrux Komilov、アズィザ・ムハメドヴァ Aziza Muhamedova、ファッルフ・ライモフ Farrux Raimovによる歌<<平和のシンボル Tinchlik timsoli>>
- 6548 : ⑱ムフスィムジョン・ムミノフ Muhsimjon Mo'minovとヤフヨベク・ムミノフ Yahyobek Mo'minov による歌<<元気な美人 Sho'xi parivash>>
- 6752 : ⑲マリーカ・エガムベルディエヴァ Malika Egamberdiyeva による歌<<私の眉 Qoshima>>
- 6924 : ⑳アブドゥラシド・ユルダシェフ Abdurashid Yo'ldashev による<<美しい人たち Go'

⁶ 蜂蜜やキャンディのように甘い=愛おしい存在、すなわち「私の可愛い子ども」の意。

⁷ 原題はバレエ『Casse Noisette (仏語)』から<<Valse des fleurs (仏語)>>。邦題はバレエ『くるみ割り人形』から<<花のワルツ>>。

⁸ 原題はオペラ『Ernani (伊語)』からアリア<<Ernani involami (伊語)>>。邦題はオペラ『エルナーニ』からアリア<<エルナーニよ、一緒に逃げて>>。

⁹ 原題は<<Tu cosa fai stasera (伊語)>>。邦題は<<今宵の君は>>。

¹⁰ 原題はオペラ『La traviata (伊語)』からアリア<<Libiamo ne' lieti calici (伊語)>>。邦題はオペラ『椿姫』からアリア<<乾杯の歌>>。

zallar》

- 7043：②①ズィヨダ・コビロヴァ Ziyoda Qobilova による歌《真珠 Marvarid》
 7208：②②ラヴシャン・コミロフ Ravshan Komilov による歌《心が落ちていて Dil yayrasin》
 7345：②③ダヴロン・スライモノフ Davron Sulaymonov とシリン・ムザッフアーロヴァ Shirin Muzaffarova による歌《心の火 Qalb otash》
 7513：②④ウルグベク・ラフマフトウツライエフ Ulug'bek Rahmatullayev による歌《来なかった Kelmadi》
 7631：②⑤フルカト・アシュラリエフ Furqat Ashuraliyev とエルムロド・アフメドフ Elmurod Ahmedov による歌《私のことを見ていて Parvo etib ket》
 7834：②⑥グルサナム・ママゾイトヴァ Gulsanam Mamazoitova による歌《愛おしい人 Muhabbatim》
 8027：②⑦マフムド・ナモゾフ Mahmud Namozov による歌《花のような美人 Gul pari》
 8202：②⑧カフル・エシチョノフ Qafur Eshchonov、グルム・エシチョノフ Gulom Eshchonov、トルキン・ジャッポロフ Tolqin Jabborov、ブンヨドベク・サイドフ Bunyodbek Saidov、ディルムロド・スルタノフ Dilmurod Sultanov による歌《カイロク・ヨッラスイ Qayroq yollasi》と《ラズギ Lazgi》
 8637：②⑨オゾドベク・ナザルベコフ Ozodbek Nazarbekov による歌《愛の火 Ishq o'tida》
 8935：③⑩オゾドベク・ナザルベコフ Ozodbek Nazarbekov とグルサナム・ママゾイトヴァ Gulsanam Mamazoitova による《心のウズベキスタン Jan O'zbekiston》

C. 「コンサート」の概要

「コンサート」は会場で流されるアナウンスを目安とすれば、①～⑧、⑨～⑪、⑫～⑳と区分できるが、⑯と⑰の間で出演者が総入れ替えするとともに音楽がクラシックからエストラダ¹¹になるので⑫～⑳をここで二分し、①～⑧、⑨～⑪、⑫～⑯、⑰～⑳と改めることとする。順に「伝統文化¹²」「子ども・若者」「クラシック」「エストラダ」をキーワードとしてその概要を示したい。

a. 「伝統文化」

まず伝統文化は音楽を通じて想起される。歌や踊りの伴奏音楽には伝統楽器が多用されており、とくに①②③においては伝統楽器のみの伴奏となっている。④以降になるとシンセサイザーの使用が聞き取れるが、伝統楽器の音がなくなることはほとんどない。なかでもドイラ（梓太鼓）の音が顕著である。また、音楽的な伝統らしさはとくに①と③の歌手——いずれも伝統音楽の一分野に分類されるマカーム音楽¹³の担い手として確立された地位をもっている——の唱

¹¹ 大衆向け軽音楽。d項参照。

¹² ここで言う「伝統文化」とは帝政ロシアやソ連の影響下に置かれる前から伝わる文化を指す。

¹³ 東田（2003：122）は「中央アジアのオアシス都市では、遊牧民の独奏・独唱とは異なる種類の音楽が伝えられてきた」とし、その代表的なものとしてマカームを「一定の旋法（マカーム）とリズム型に基づいて演奏される組曲で、固定的な要素と即興的な要素のコントラストが特徴的だ。マカーム音楽もまた地方様式を持ち、ブハラ、ホラズム、フェルガナのマカームが現在に伝えられている」と説明している。そしてとくにブハラのマカームについて次のように記述している。「ブハラのシャシュ（六）・マカームでは、各楽章が一つの旋法によって演奏される器楽部分と声楽部分を持ち、それぞれの部分が自由リズムあるいはさまざまなリズムパターンで演奏される」。

法（コブシを利かせた朗々とした歌声）によく表れている。

あるいは歌やパフォーマンスの主題が伝統（とくにナウルズに関連する事柄）になっている場合もある。①は春の到来＝ナウルズを歌うものであるし、④では「ナウルズ・サイリ、スマラク・サイリ Navro'z sayli, sumalak sayli¹⁴」という掛け声があり、それを受けるかたちでスクリーンには高原に行く一群の人々が映し出される。そののちに「スザニ」という伝統的な刺繍が施された布を主題にした歌が歌われ、ステージでは「スザニ」の実物が何枚もディスプレイされる。

また、⑦は若い娘たちが次のように声を合わせ、スクリーンには麦芽やスマラク作りの様子の一部が映し出される¹⁵。

スマラクの中には石があり、	Sumalakning toshi bor,
その石には願いがある。	Toshida duosi bor.
その願いを唱えたら、	Shu duoni o'qigan,
いいことが起こる。	Yetti malak naqli bor.

これに続いて《ナウルズ祭が来た》が賑やかに歌われ、トラックステージでは大釜でスマラクを作ったり、タンディル窯からナン（伝統的な円形のパン）を取り出したりと、いずれも演技ではあるが、楽しげにナウルズを祝おうとしている様子が表現されている。

④から⑤へと場面が変わる30分40秒あたりからは、カラカルパクスタン共和国の伝統衣装を着た女性たちがカラカルパクの伝統工芸品——陶器、木工品、水差し、楽器——を手に続々と中央ステージを往来する。⑤では二曲が歌われているが、いずれも歌詞はカラカルパク語である。同共和国は独自の憲法や国旗・国章・国歌をもつ「主権国家」とされるものの、それはウズベキスタン憲法の枠を超えることは許されない、いわば名目上の「主権国家」であるが、「文化面に限っては独自の権利が認められている」（坂井 228）。このナウルズ祭でのパフォーマンスはその反映であろう。

b. 「子ども・若者」

ここでの一連のプログラムでは、伝統的な印象をほとんど受けない。伴奏音楽に伝統楽器であるドイラやナイが使われている楽曲があり、またドゥタール（撥弦楽器）を手に踊る子どもも見られるが、シンセサイザー音が前面に出ているためか、あるいは歌唱法がまったく異なるためか、a項のように「伝統文化」の上演のような印象を与えない。

歌は、大人が歌う子どもを愛でる歌（⑨）で始まり、それに小学校低学年に相当するであろう子どもたちのグループ六団体の競演「私たちは幸せな子どもたちです」が続く（⑩）。歌い踊りながら披露される歌詞内容は、たとえばナウルズを機に服を新調してもらったことを喜ぶもの（一曲目）、平和な祖国に暮らす幸せを歌うもの（四曲目）、国の将来である自分たちが国のために努力することを誓うもの（六曲目）となっている。各団体がそれぞれ一曲を担当しており、スクリーンに映し出されるのは、幼い子どもの無邪気な姿であったり、仲睦まじそう

¹⁴ 「ナウルズ・サイリ」とは「町の中心部に、日本の縁日のように、さまざまな露店や大道芸人などが出て、また伝統的な儀礼や遊戯がおこなわれる」のを目当てにした散策をいう（菅沼 2005：482）。

¹⁵ 麦芽を煮込んで作るペースト状のお菓子。願掛けのために（さらには焦げ付き防止のために）石を入れるのだが、この詩ではそれが詠みこまれている。

な家族の肖像であったり、熱心に学習する生徒であったりする。

子どもたちと入れ替わるのは、ウスペンスキー共和国音楽芸術会の生徒たちで、ここで歌われるのは「ウズベキスタン」という、祖国を歌詞の主題としたエストラーダである (⑩)。エストラーダはd項で集中的に歌われるため、そこで詳述したい。

c. 「クラシック」

ここではバレエ (⑫) やオペラのアリア (⑬⑭) などの、クラシック音楽が披露されている。白いタキシードや白いドレスを纏ったオーケストラの楽団員たちが、指揮者に合わせて演奏の演技をするなか、バレリーナたちが踊りを披露し、声楽家たちが歌っている (リップシンク)。スクリーンにはピアノやヴァイオリンといった西洋楽器やライトアップされたコンサートホール (ナヴァーイー劇場か?) とその内部などが映し出されている。

これらの音楽はソヴィエト時代にウズベキスタンにもたらされたものである。ヴィクトール・ウスペンスキー¹⁶、レインゴリト・グリエール¹⁷、アレクセイ・コルゾフスキー¹⁸といったソヴィエトの音楽家たちが、一から同国の音楽的近代化を推進していった (MacFadyen 57)。ウズベキスタンにおける近代化は「ソヴィエト化さらにはロシア化を意味し」、「ウズベキスタンにおけるオペラ・バレエの歴史は、まさにソヴィエト連邦における文化政策によって与えられた課題を達成していく歴史でもあった (浅村 2003: 122)」。

独立後のナショナリズムの特徴の一つとして帯谷 (2003) は「ロシアおよびソ連の影響の払拭、ロシア的ソ連的価値観の否定 (117)」が広範囲わたって見られることを指摘しているが、こうした祝典におけるオペラやバレエの上演は何を意味するのだろうか¹⁹。独立から四半世紀ほどが経過し、ロシアをもはや意識的に否定せずともよくなったのだろうか。あるいは近年のロシアとの関係の反映か²⁰。それとも現状——ウズベク人が占める人口の割合が8割に満たない現状、依然としてキル文字によるウズベク語の表記が存在する事実など——の反映か。今後、多角的に検討したい。

¹⁶ Viktor Uspenskii (1879-1949)。ソヴィエト (ロシア人) 音楽学者。1920年代よりウズベキスタンで西洋音楽理論を広めた。同国においてクラシック音楽を広めた最大の功労者の一人とみなされ、ウスペンスキー共和国音楽芸術会はその功績によって名付けられた。

¹⁷ Reinhold Gliere (1875-1956)。ソヴィエト (ウクライナ人) 作曲家。1930年代末にウズベキスタンで西洋音楽の普及に努めた。

¹⁸ Alexei Kozlovsky (1907-1977)。ソヴィエト (ロシア人) 作曲家・指揮者。1949年から1957年と1960年から1966年にかけてウズベキスタン交響楽団を首席指揮者として指導。

¹⁹ さらに「音楽を返して」 (⑮) はソ連邦で活躍した大歌手・ムスリム・マゴマーイエフが歌ったロシア語による歌をそのままロシア語で歌っている。ムスリム・マゴマーイエフ Muslim Magomaev (1942-2008) : ソヴィエト (アゼルバイジャン人) 歌手で1960年代と70年代に活躍。

²⁰ ロシアの文化、政治、ビジネス、科学、社会の各分野におけるニュース、解説、オピニオン、分析を提供する多言語の情報リソースである日本語版ロシアNOWは、2014年12月12日に「12月10日、ロシアのウラジーミル・プーチン大統領は、ウズベキスタンを訪問し、同国のロシアに対する8億6500万ドルの債務の帳消し、経済協力の拡大、食糧の供給、地域の安全保障、武器輸出の増大などについて合意した」と報じている。

d. エストラダ

この項で歌われる⑰～⑳のすべてがエストラダである²¹。ウズベキスタン芸術アカデミー芸術研究所のムッラジャノフ（2003）はエストラダを次のように説明する。

形態と内容において単純で、広い範囲の（大衆的な）聴衆にとって手の届くものであり、すぐに覚えられて、多くの場合踊りやすく（かなりの程度、「ビート」の要素、つまり「リズムのきいたスタイル」を含む）、娯楽に資する音楽の様式（140）。

だが、b項で歌われたエストラダの歌詞の主題が祖国愛であったことにも反映されているように、この音楽にはムッラジャノフの様式に関する説明からだけでは理解しがたい一面がある。マーチャント（2009）はエストラダを「国家的ポピュラー音楽」として次のように説明している。

ソヴィエトのエストラダ、他の国際的なポピュラー音楽、そして「伝統的」な音楽実践とこの音楽との関わりは、西洋のハーモニーやシンセサイザーや伝統楽器やウズベク語による歌詞といった高いハイブリッド性を有した音楽様式に表われている。そして、このことがウズベキスタンは伝統に価値を見出す現代的国家であるという重要な政治的なメッセージを表象している（Merchant 373）。

マーチャントが「政治的メッセージ」としているように、エストラダは独立後の新しいナショナリズムを奨励する装置として活用されている。1996年の大統領令「文化・芸術制度における音楽教育活動の向上と教育機関の完全整備について」では、ウズベキスタン国立音楽院にエストラダ音楽部の開設、ならびにエストラダ・サーカス・カレッジの創設が指示された（帯谷 2003：120）²²。さらに2001年には大臣会議決定「エストラダ・歌謡芸術の更なる発展について」が発布され、「エストラダ・歌謡芸術は祖国愛感情の育成と独立の理念への献身に貢献すべき」として、この音楽のための評議会の設置、さらにはウズベクナヴォという音楽公演のライセンスを付与する機関の権限を強化した（帯谷 同前）。

b項で歌われた《ウズベキスタン》（⑪）の歌詞の主題が祖国愛であるのは、こうしたナショナリズムとの結合からなのであるが、エストラダの歌詞が必ずしも常に「国家」「民族」「国民」を歌っているわけではない。2016年のナウルーズの祭典を見る限り、d項におけるエストラダは最後の《心の（私の）ウズベキスタン》（⑳）を除いて、その歌詞から祖国愛を感受するのは難しく、むしろ単なる娯楽として上演されている観すらある。

スタンドの観客たちはエストラダ曲《平和のシンボル》（⑰）——この日がナウルーズを祝う祭日であることが歌われている——が始まると、その軽快さ・賑やかさに誘われるかのように、前項でのクラシック音楽鑑賞モードから一転して、手拍子で歌に応じ徐々に踊り始める。スクリーンに映し出されるのも、春の花々であったり、伝統工芸に用いられるデザインであったり、具体的に「国家」を連想させるものではない。次曲の《元気な美人》（⑱）以降はお祭

²¹ すでにa項とb項においてもエストラダあるいはエストラダ風のアレンジは見られる。また、d項の㉔はホラズム民謡であるが、これもまたエストラダ風の編曲が施されている。

²² ただし、マーチャントの報告によると、エストラダの担い手の多くは、こうした養成学校の卒業生ではなく、伝統音楽系の音楽院の出身者だとのことである（373）。

りムードとなり、テレビカメラは積極的にこうした踊る観客たちを映し出す。

だが、こうしたなかで画面に登場する頻度が一段と高いのが、カリモフ大統領の踊る姿である。ショット数にして10回、計およそ50秒²³。大統領のショットがa項で2回、b項で3回、c項で1回であったことを考えると、d項での「踊る大統領」という像のもつ重要度が推しはかれよう²⁴。すなわち、d項のエストラダは「単なる娯楽として上演されている観すらある」と先に述べたが、それ以上の意味があるのを想像するに難くない。さらにフィナーレ(⑳㉑：いずれもエストラダ)で大統領の露出が飛躍的に多くなることから、「娯楽」とは別の意図があることが察される。㉑が始まると大統領はトラックステージに降り立ち、客席から差し出される手を次々と握りながら一周する。㉑(祖国愛を主題とした《心のウズベキスタン》)では客席の全員が立ち上がり、大統領が観客に向けて手を振りつつ、ときに観客と握手しつつ、ときに観客に拍手を送りつつ、終幕となる。映像に映し出される頻度と時間からすると、このフィナーレの主演は紛れもなくカリモフ大統領である²⁵。

D. まとめ

以上が国家主催によるナウルズの祭典の概要であった。

今後はさらに小規模な単位(地方自治体、学校など)が主催するナウルズの祭典、あるいは別の形のナウルズの祝い方を調査研究し、幾層にもわたって構築される「ナウルズ」のあり方、さらにはウズベキスタンという国家との関連を明らかにしたいと考えている。

また、2016年9月2日にイスラーム・カリモフ大統領が逝去した。これに伴い、今後、国家主催によるナウルズの祭典がどのように継承されていくのか、継続的に調査観察を続けていくつもりである。

【付記】本研究は科学研究費補助金・基盤研究(B)「中央ユーラシアにおける探検隊考古資料を活用した無形文化遺産の保存伝承研究(2013年～2017年、研究代表者：鶴島三壽)」の成果の一部である。

参考文献：

- 浅村卓生 2003 「ウズベキスタンにおけるオペラ劇場」黒田卓、高倉浩樹、塩谷昌史編『中央ユーラシアにおける民族文化と歴史像』(東北アジア研究センター叢書)第13号、東北大学東北アジア研究センター、111-134頁。
- 帯谷知可 2003 「ポスト社会主義期中央アジアにおける新しいナショナリズムと文化——ウズベキスタンの『祖国の歌』についての覚書——」『ポスト社会主義圏における民族・地域社会の構造変動に関する人類学的研究——民族誌記述と社会モデル構築のための方法論

²³ 「踊る大統領」が確認できるのは以下の時間(上二桁=分、下二桁=秒)：7300-7303、7332-7334、7405-7411、7711-7713、7901-7906、7924-7930、8004-8011、8110-8117、8310-8318、8518-8521。

²⁴ a項では1925-1928、2051-2054、b項では4403-4404、4412-4414、4701-4704、c項では6113-6115で、いずれも手拍子や拍手などを行っている姿である。なお、d項(㉑まで)では踊らずに手拍子などを行っている姿も見ることができる(6720-6724、7507-7508、7615-7621、8305-8307)。

²⁵ ㉑：8658-8700、8707-8710、8712-8734、8739-8823、8826-8842、8902-8917。㉑：8955-9004、9009-9045、9051-9104、9107-9115、9128-9132、9135-9139、9143-9157。さらにこのあとには大統領とコンサート的主な出演者たちが握手を交わす場面が映され、それをもって放送は終わる。

- 的・比較論的考察——（科学研究費補助金基盤研究C（2）研究成果報告書）』国立民族学博物館 117-123頁。
- 小松久男ほか編 2005 『中央ユーラシアを知る事典』東京：平凡社。
- 齋藤完 2016 「ウズベキスタン共和国における伝統文化の保護——ユネスコ無形文化遺産・ナウルズの事例を中心に——」『山口大学教育学部研究論叢. 芸術・体育・教育・心理』65巻、79-86頁。
- 菅沼純 2005「祭り」小松久男ほか編『中央ユーラシアを知る事典』東京：平凡社、480-482頁。
- 坂井弘紀 2003 「カラカルパクスタン——国家内国家のアイデンティティ——」『中央アジアを知るための60章』明石書店、226-230頁。
- 東田範子 2003 「現代に生きる伝統音楽——多様な楽器と『近代化』——」『中央アジアを知るための60章』明石書店、120-124頁。
- ムッラジャノフ、ダヴラト（帯谷知可訳） 2003 「独立期のウズベク音楽エストラダ」『ポスト社会主義圏における民族・地域社会の構造変動に関する人類学的研究——民族誌記述と社会モデル構築のための方法論的・比較論的考察——（科学研究費補助金基盤研究C（2）研究成果報告書）』国立民族学博物館、139-148頁。
- MacFadyen, David (2004) *Russian Culture in Uzbekistan: One Language in the Middle of Nowhere*, Routledge
- Merchant, Tanya (2009) *Popping Tradition: Performing Maqom and Uzbek "National" Estrada in the 21st Century*. *Popular Music and Society*, Volume 32, Issue 3, pp. 371-386.

参考URL：

- Embassy of Uzbekistan to the United States (2004) "About Uzbekistan / State Symbols"
<http://www.uzbekistan.org/uzbekistan/symbols/> 2016年06月24日12時08分受信。
- ロシアNOW (2014) 「プーチン大統領がウズベキスタンを訪問」
<https://jp.rbth.com/politics/2014/12/12/51431> 2016年07月17日11時04分受信。
- TRT AVAZ (2016) "Özbekistan'da Nevruz Kutlamaları 2016"
<https://www.youtube.com/watch?v=QEMZFNZUzcQ> 2016年05月25日19時08分受信。